

公益財団法人 ヤマト福祉財団

団体情報

代表者 (理事長) 山内 雅喜

住 所 〒104-0061 東京都中央区銀座2丁目12-18 ヤマト銀座ビル 7F

WEB サイト URL <https://www.yamato-fukushi.jp/>

「自立して生活できることで幸せを感じられる」を大切に

宅 急便に恩を感じて

ヤマト福祉財団は、1993年、宅急便を開発した故小倉昌男初代理事長から個人資産であるヤマト運輸（当時）の株式200万株の寄付を受け、それを基本財産として設立されました（後に120万株を追加寄付）。個人の資産を基本財産としながらも、小倉氏は財団の名前にヤマトを入れることにこだわり、設立趣意書にも企業の社会的責務について言及しています。これにより社内の空気が変わりました。小倉昌男氏が始めた障がい者福祉を目的とする財団活動にヤマト運輸も賛同し基本財産に寄附を行ったほか、ヤマト運輸労働組合が協力して当時の社員5万5千人のうち3万5千人が年間会費千円の賛助会員となりました。家族が暮らせるのは宅急便のおかげだと考える人も多かったのです。

・現場第一で

小倉理事長は「やればわかる」をモットーに様々な事業に取り組んできました。スワンベーカーリー事業もそのひとつで、1998年に財団活動とは別に株式会社スワンとして銀座にスワンベーカーリー1号店を開設しました。（写真1）

小規模作業所パワーアップセミナーは、小倉理事長が小規模作業所の運営責任者を

集め2泊3日の宿泊研修の形で全国を行脚。当時は、工賃を稼ぐ営利的な手法に抵抗感のある人も多く、膝を突き合わせて語りあう小倉理事長の姿がありました。また、その合間にはヤマト運輸の障がい者雇用の現場にも繰り返し足を運び、社員たちを励ましていました。そしてその成長ぶりに感心していたものです。

（写真1）



・引き継いで来たもの

現在、助成金、奨学金、研修、表彰、災害支援など創設時の「こころ」を引き継いで年間総事業費2億8千万円（2019年度）で活動しています。それらの事業のうち、「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」と「ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈」についてご紹介します。

「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」

小倉理事長が、小規模作業所で働く障がい者の給料（工賃）が月額1万円以下であったことに驚き、企業経営者として貢献するため始めたパワーアップセミナーは、その後社会的な影響も与えながら、日帰り形式の障がい者の働く場パワーアップフォーラムとして現在も継続し、累計11,538名が受講しています（2019年現在）。

（写真2）

ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者や福祉現場の先駆者を講師に迎え、その時々 of 社会的な課題などを取り上げながら開催しています。コロナ禍を機にオンラインでも開催しましたが、遠隔地からの受講が相次ぎ、これからの活動のあり方として手応えのあるものでした。



（写真2）

「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」

（写真3）



小倉理事長の発案で創設された「ヤマト福祉財団賞」は障がい者福祉に尽力した個人を表彰するもので、1999年12月に第1回贈呈式を開催して以来、第6回から「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」に名を変えて2020年12月「第21回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式」をオンライン配信形式で開催して現在に至っています。（写真3）受賞者には、パワーアップフォーラムの講師や実践塾と称する小グループ研修の塾長として財団の活動に協力していただき効果を上げています。コロナ禍を受けてヤマト福祉財団小倉昌男賞もライブ配信を行いました。全国のヤマトグループ社内各所が視聴することができたため社内から問い合わせが相次ぎ、小倉理事長を知らない世代にアピールする副次的な効果もありました。

・ヤマト福祉財団のこれから

当初、消費者間の小口輸送として田舎のお母さんと都会の子どもたちの間を結んだ宅急便は、インターネットの普及やネット通販の隆盛など時代の変化も重なり社会的インフラの役割を担うようになりました。社員も20万人を越え、賛助会員も8万人に届こうとしています。

毎年、ヤマトグループの労働組合が実施している「夏のカンパ」では、7280万円の寄付（2020年10月）がヤマト福祉財団に贈られました。また、ヤマトホールディングス（株）も毎年営業利益の0.5パーミル（1/2000）を上限とした寄付を行っています。

ヤマト福祉財団は小倉昌男氏の遺した基本財産と会社・組合・社員からの寄付に支えられ、これからも障がい者の福祉に役立つ活動を行っていきます。

(2021.01)